



小児科長
平家 俊男



子ども達とともに 未来を志向する小児医療

小児期の疾患のほぼすべてを対象として、幅広い診療を展開している。外来では一般外来の他、循環器、代謝内分泌、血液・腫瘍外来、免疫・アレルギー、神経、未熟児、心療、小児心理外来等を行っている。移植コーディネーターや心理士、リハビリテーション部などからも協力をいただき、多面的に診療を行っている。入院では、血液・悪性腫瘍、免疫不全症、神経筋疾患が主となっており、小児がんに対する集学的治療、造血幹細胞移植、心臓カテーテル検査、ピアオ脳波、治験を通じた新薬治療など先駆的な治療法に取り組んでいる。小児疾患の特徴上、救急外来で対応すべき症例も多く、京大病院救急外来受診患者のうち小児科で1割強の患者さんを診療している。

代表的診療対象疾患

白血病、固形腫瘍、再生不良性貧血、免疫不全症、アレルギー性疾患、先天性代謝異常症、下垂体機能不全症、糖尿病、てんかん、筋疾患、後天性心疾患、低出生体重児など

診療体制と治療実績

外来診療体制と実績

外来においては、一般・専門外来の他、がん診療部・小児脳腫瘍外来において脳神経外科、放射線治療科とユニットを形成し脳腫瘍に対する診療を行っている。外来化学療法部と連携し、がんセンターにおいて小児に対する外来化学療法を行っている。また、疾患によって思春期から成人以降の患者さんも診療を行っており、その数は全小児科外来受診者の1割を超える。また、京大病院救急外来受診者の1割を小児科単科で担当している。

入院診療体制と実績

入院においては、小児外科、小児心臓血管外科、形成外科など関連する診療科と連携しながら、小児病棟にて診療を行っている。なかでも、

白血病などの悪性新生物、原発性免疫不全症などに対する造血幹細胞移植、先天性代謝異常症に対する造血幹細胞移植や移植外科との連携による生体肝移植等には全国より紹介患者を受け入れている。また、長期入院病児を対象とした院内学級を併設し、入院中の学習を支援している。また、病棟保育士による院内保育を実施している。

入院診療統計 (2012年度)

小児科延べ患者数	10,995人
平均在院日数	11.18日
NICU 延べ患者数	3,205人
平均在院日数	20.58日
GCU 延べ患者数	3,721人
平均在院日数	19.00日

高度先進医療の取り組み

多様な研究を展開

日本小児白血病リンパ腫研究グループ(JPLSG)臨床研究: ALL-R08 (第一再発小児急性リンパ性白血病に対するリスク別臨床研究)、MLL-10 (乳児期発症の急性リンパ性白血病に対するリスク層別化治療の有効性に関する多施設共同第II相臨床試験)、ALL-T11 (小児および若年成人におけるT細胞性急性リンパ性白血病に対する多施設共同第II相臨床試験)、ALL-B12 (小児前駆細胞性急性リンパ性白血病に対する多施設共同第II相および第III相臨床試験)、AML-D11 (ダウン症候群に発症した小児急性骨髄性白血病の微小残存病変検索の実施可能性とその有用性を探索するパイロット試験)、AML-R11 (小児急性骨髄性白血病<AML>初回骨髄再発例および寛解導入不能例に対するFludarabine

を含む寛解導入療法の有効性と安全性を検討する多施設共同第II相臨床試験)、CML-08 (小児慢性期慢性骨髄性白血病<CML>に対する多施設共同観察研究)、LLB-NHL03 (小児リンパ芽球型リンパ腫stage I/IIに対する多施設共同後期第II相臨床試験)、LCH-12 (小児ランゲルハンス細胞組織球症<LCH>に対するリスク別臨床研究)、TAM-10 (一過性骨髄異常増殖症に対する多施設共同観察研究)、JMML-11 (若年性骨髄単球性白血病<JMML>に対する静注用Bu + Flu + L-PAM前処置法による同種造血幹細胞移植第II相臨床試験)など

造血幹細胞移植(骨髄、末梢血、臍帯血)を過去5年で計82件(自家移植48件を含む)施行している。